

中村溪城

議に就て  
同憂の士

者並に操觚界の猛省を促  
局怠慢の責任を問ふ  
かに労働法規を制定實  
題の根本的解決を期せ

(行發日八十月七年十正大)

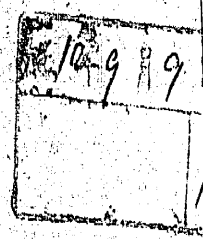
# 反

# 響

# 號

# 外

編輯發行兼印山人本敬治



労働争議の頻發!!! 是れ果して何を意味する乎。職工團  
して何を求むるか。労働運動の悪化!!! 是れ果して何  
労働争議の頻發は正に是れ労働者の自覺を表現すべ  
を表白しつゝ、あるなき乎。職工團の示威運動は正に  
社會的地位と獨立的人格の要求に在るべくして事實  
だ眼前のパンを求めむとするに在る乎。労働運動の  
果を阻害し或は三菱に於ける同志打の醜態を演じ或  
理の如き權力の破壊に至らむとして自ら革命の光を  
の青服黄服が隊を組み職を押し立て労働歌を高唱しつ  
様は一步間違へば警察力も如何ともし難き概を示せ  
々赤化の傾向を現はし來らば、國家の秩序は果して何

(一)  
抑も労働運動の勃興は機械工業の發達に伴ふ自然の現象にして恰も勢  
勢ひ奔騰して大原を貫流するが如し、恁に已むを得ざる勢なり。故に  
到底人力の及ばざる所にして、若し之を敢てせば戦慄すべき結果を屢  
に放任するの益々危険なるを覺ゆ。蓋し滔々として流れ下る大河の水  
激奔して堤坊を決し人家を流し田圃を荒廢せむこと必せり。さらば  
水流は其擇ぶ所に任せて流溢し農園都市到る處に其威を逞しうせむ  
へ得べき所に非ず。労働運動も亦此の如く、之を一時に阻止するは  
を一時に阻止するの不可なると共に之を放任するも亦不可也。是に  
の態度に出づ。偶々警察官の居中調停を試み一時を糊塗せるあり  
れたること無く云はゞ臭いものに蓋したるに過ぎず、所詮現今の社  
へに解決の期無からん。吁、労働亡國乎!!

(二)  
神戸市に於ける労働運動は其當初、労働者に「パンを興へよ、否ら  
き眞劍味無く従つて其運動振りの隋氣満々たりしに徴し明らかに何  
看取せられたるが其長引くに從ひ生活上に不安を來すと共に精神上  
衷心私かに其處に到らして周囲の解決を見むことを庶幾つゝ而  
きに想到して憂懼禁する能はざりき。  
已にして運動は悪化し來り、川崎に於ける工場管理  
るに至れり。苟も工場管理と云ふ以上は、工場主た  
て工業機械及材料一切を占有し工業實施の支配權を  
の意たる可し、果して然らば其行爲たるや現時の法  
侵害たるを免れずして、斯の如き宣言を公然號呼す  
用は既に無視せられ、社會の秩序は半ば攪亂せられ  
ず、而かも其行爲は他にも波及せんず形勢に在りて  
全市に漲り或は吾人の杞憂せし所の實現を見むも測り